

面接は「恐るるに足らず」

「中学生に面接練習は必要ない」というのが私の考えです。いかにも仕込まれた動作や話し方、事前に準備された回答を考えると、「付け焼刃」と思えてしまうからです。入室の仕方、座り方、受け答えの仕方、語る内容については、日常の中で身に付けたものを発揮するだけでよいと私は思っています。

名前を呼ばれた時に、いつもはつきりと返事をしている人は、面接になっても返事ができるでしょう。いつも姿勢よく座っている人は、面接でも姿勢が崩れないでしょう。進路や進学先について、常に真剣に考えている人は、志望動機や将来の方向性について自信をもつて語ることができるよう。普段からできていることをそのまま面接で発揮すればよいのです。特別な練習は要りません。

これは理想であるとも思っています。面接という特別な場で自分が試されることを皆さんは経験したことがないから、ある程度教えてほしいという気もちがあるでしょうね。でも、考えを変えてみましょう。面接で通用することは、日常で指導されていること、学校生活の中で学んでいることなのです。

集会や授業で名前が呼ばれたら「はい」と返事をしようといまで言われてきているでしょうし、卒業式に向けて座り方や礼の仕方、気をつけの姿勢は毎年指導されていますよね。話し方についても、結論先行型で筋道立てて話すように指導されたことはないですか。これらをすべて実行すれば、面接は「恐るるに足らず」です。

今日の昼休みに、二名の三年女子生徒が、校長室に来て面接練習に取り組みました。二人とも昨日の内に私のもとにやってきて、「校長先生、明日の昼休みに面接練習をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか」と言ってきました。もうこの時点で、面接はバツチリだと私は確信しました。礼儀正しさと相手の都合を知るための謙虚な話し方、適度な声の大きさはきききした語り方……昨日の感触で、今日の面接練習を迎えましたが、やはり私の思った通りでした。

「私の将来の夢は、スポーツをしている人たちを支える仕事に就くことです。そのために貴校の医療健康クラスで、栄養学と運動学について学びたいと思います。」

「私は英語に興味があります。小中学校の英語の学習を通して、更に英語を学びたいと思うようになりました。ネイティブの教員が中心となって授業を進めると聞きました。本場の英語と触れ合うことができれば、自分の英語力の向上につながると感じました。」

何も言うことはありません。二人とも、最も大切な志望動機が明確です。その上に、自分が目指している高校のことをよく知っています。面接する側からしたら、入学してもらいたい生徒であるはずです。さらに、二人ともはつらつと答えました。やる気と自信に満ちてゐることは語り方でわかりました。

(一月二十五日 記)